

2021年（令和3年）8月

宮城県がん診療連携協議会  
2020年（令和2年）度PDCAサイクル評価

宮城県がん診療連携協議会 宮城県がん診療提供体制検討委員会  
委員長 丹田 滋  
(東北労災病院・がんセンター・腫瘍内科)

## 緒言

本文書は宮城県の県および地域がん診療連携拠点病院、地域がん診療病院での令和2年度（2020年度）のがん診療の内容について総括し「優れた取り組みとして評価される点」「今後の充実・改善を求められる点」を集約したものである。本文書は宮城県公式サイト「がん診療連携協議会」関連のページに掲載され、ひろく県内外からのご評価・ご批判をいただくことになる。

令和2年度は令和2年1月以降、COVID-19の世界的な感染拡大（パンデミック）が宮城県内外にも甚大な影響を及ぼし、各施設・各部会の活動を制限したことは論を待たない。本協議会の各部会が例年実施していた施設訪問・監査を令和2年度はいずれも中止を余儀なくされた。また令和3年度の事項になるが、仙台医療圏3つ目の地域がん診療連携拠点病院として東北医科薬科大学病院が指定された。PDCAの調査や評価の対象となるのは令和3年度以降となるが、新規の「仲間」の活動は注目していきたい。

今後さらに本協議会および本委員会が「改善を求められる点」としては、前回（昨年度）も触れたことだが、医療施設毎に具体的な数値目標を掲げ改善を目指すだけでなく、全県的な改善目標を（宮城県がん対策推進計画を主管する）宮城県がん対策推進協議会やがん種によっては多くの患者が診断治療する（ハイボリュームセンターとなっている）会員外施設などとも連携して設定・実行して、宮城県のがん診療の質と量とを向上させていくことであると思われる。

## 東北大学病院

### 【優れた取り組みとして評価される点】

幅広い診療科・職種・専門職を有して、県内他施設と比較すれば高度な医療とマンパワーを有する利点がある。評価される点には枚挙にいとまがないが、特筆すべき点として以下のものが挙げられた。

①化学療法関連… 1. がんゲノム医療や免疫チェックポイント阻害薬の免疫関連有害事象（irAE）への部門横断的対応 2. がんゲノム医療の均てん化のため、がんゲノム医療中核拠点病院として、宮城県立がんセンター（がんゲノム医療連携病院）と協力し、県内がん医療従事者や一般市民にがんゲノム医療をさらに啓発・普及活動を実施している。3. COVID-19 感染拡大予防策（以下、COVID 対策）では、化学療法室を2区画・2チームに分け、スタッフに感染陽性者がでても半分の機能が維持されるように工夫した。

②放射線治療関連…通常放射線治療に加え、定位放射線治療や強度変調放射線治療、密封小線源治療、RI 大量内用療法など多彩な治療を受けられる体制が整備されている。放射線治療新患者数は1100名を超え、特に強度変調放射線治療の件数は国内でもトップクラスとなっている。

③緩和ケア関連…入院患者における「苦痛のスクリーニング」実施回数が入院患者数あたり1を超えており一回入院あたり複数回のスクリーニングが実施されていると考えられた。緩和ケアチームの活動が県内施設中、特に活発であったと言える。がん患者指導管理料ロ（不安などの症状に対して看護師主体の加算）の件数は県内で最も多かった。総括すれば、他施設と比較して緩和ケアチームが苦痛のスクリーニングを用いて入院患者の苦痛を拾い上げて、各部署のカンファレンスに参加して病棟スタッフ・治療担当医師との連携が強化されている。

④患者相談関連…患者の意思決定支援の点を含めてピアサポートとなる複数の患者会・サロンが設置されている点など、全国的な視点から求められている県拠点病院のレベルを維持している。評価基準として使用したPDCA サイクル実施状況チェックリストの評価項目31項目の中で前年度より評価点が向上した項目が6項目あり、着実に業務改善に努めていることが伺われる。

⑤がん登録関連…ともに県がん診療連携拠点病院である宮城県立がんセンターと協力し、実務者育成支援事業に取り組んでいる。

⑥地域医療連携関連…職員配置では全体の人員配置が多く、相談支援部門もがん・難病・ご意見とそれぞれに相談員がおり、体制が充実している。在宅医療機関リストについては宮城県全域の在宅医療機関が網羅されている。

⑦口腔ケア関連…悪性腫瘍手術実施患者における「周術期口腔機能管理料」算定件数が80%程度と高率であった。入退院センターで看護師から入院前の歯科受診を勧めている。

⑧看護関連…苦痛のスクリーニングについて、がん患者のいる病棟すべて実施され定着している。外来でも徐々に実施診療科と件数が増えている。緩和ケアチームが2チーム制となり件数が増加している。がん患者指導管理料（ロ）については加算漏れがないようチェックしている。

【改善・充実が求められる点】

各部門積極的な取り組みが見えてとれ、宮城県がん診療連携協議会の各部会を宮城県立がんセンターと共同してよくリードしていると評価できる。しかし、以下の点について各部門から改善あるいは充実すべき点として要望したい。

- ①化学療法関連… 1. COVID 対策関連で薬剤師による抗がん剤服薬指導が一時期中止されていた。  
2. 全施設の中で一番長い外来化学療法室の待ち時間対策として採血場所や時刻設定、スタッフ配置などの工夫が必要である。
- ②放射線治療関連…COVID 流行時の放射線治療提供体制の整備についても県内関連施設へリーダーシップが求められる。
- ③緩和ケア関連…1. 緩和ケアにおける外来診療科との連携、外来での「スクリーニング」実施率の向上、減少したがん看護外来の増加。2. 外来薬剤管理の充実。 3. COVID 対策のため県内全体で開催回数が減少した緩和ケア研修会受講率の増加 4. 地域と緩和ケア病棟の連携強化
- ④患者相談関連…可能であれば県拠点病院として必要な相談員指導者研修を修了した相談員をがん相談支援センターに複数名配置することを求めたい。
- ⑤がん登録部会…がん登録中級認定者の増員
- ⑥地域医療連携関連… 1. 関係職員の業務分担が明確でないことがある。 2. 相談業務を担当する公認心理士の配置が望ましい。 3. 在宅医療機関リストについては記載されたすべての機関ががん診療に対応しているだけでなく確認が必要。
- ⑦口腔ケア関連…病院担当部署と歯科診療所との連携の充実
- ⑧看護関連… 1. 緩和ケアリンクナース会の開催頻度が年 5 回と他施設に比較して少ない。 2. がん関連認定看護師以外にもがん看護外来を担当できるように連携体制の整備が必要である。 3. がん看護専門看護師は年 1 名増加しているががん関連認定看護師の育成が必要である。

## 宮城県立がんセンター

### 【優れた取り組みとして評価される点】

宮城県がん診療連携協議会の各部会を、同じく県がん診療連携拠点病院である東北大学病院と共同してリードしていると評価できる。

①化学療法関連… 1. irAE（免疫チェックポイント阻害薬の免疫関連有害事象）対策について院外の専門診療施設と連携が強化されている。2. 支持療法委員会や薬剤師外来の活動。3. 抗がん剤曝露対策では全抗がん剤の調剤・投与でのCSTD（Closed-System drug Transfer Device）利用の他、看護補助者や清掃・クリーニング業者へも曝露対策の講習会を実施している。4. 外来治療では薬剤師が医師診察前に問診を行い医師への情報提供を行うことで診察の効率化を図っている。5. COVID対策として主治医判断での休業期間の延長や電話外来の設置を行った。またホームページで患者向けに「日常生活の過ごし方」を載せて周知した。

②放射線治療関連…放射線治療医常勤3名や医学物理士2名、認定看護師がそろっており、強度変調放射線治療や定位放射線治療、密封小線源治療を実施している。リニアックは3台体制である。症例数も多く、県内では2番目の規模となっている。

③緩和ケア関連… 1. 入院患者における「苦痛のスクリーニング」を担当看護師だけでなく複数名で実施するなどの取り組みがあり、その結果実施回数が入院患者数あたり1を超えており一回入院あたり複数回のスクリーニングが実施されていると考えられた。2.（「県拠点」の責務である）緩和ケア地域連携カンファレンスをオンラインで実施し、地域の現状と課題について多職種で話し合う場を設けることができた。3. 緩和ケアチームは精神症状に関する依頼を多数担当している。

④患者相談関連…全国的な視点から求められている県拠点病院のレベルを維持している。また、評価基準として使用したPDCAサイクル実施状況チェックリストの評価項目31項目の中で前年度より評価点が向上した項目が8項目であったことで、業務改善に努めていることが伺われる。コロナウイルス感染症により集合開催が困難な中、県拠点病院として東北地方全体の相談員を対象とした育成研修会をWeb上で開催したことは評価できる。

⑤がん登録関連…オンジョブ方式の実務者育成支援事業に取り組んでいる。

⑥地域医療連携関連…施設規模に対して、公認心理士2名を含めてがん相談支援に携わる人数が多く、充足した対応ができている。

⑦口腔ケア関連…悪性腫瘍手術実施患者における「周術期口腔機能管理料」算定件数が80%程度と高率であった。

⑧看護関連…苦痛のスクリーニングは全病棟で定着し入院時実施率が高い。看護外来が「がん看護外来」と（化学療法、放射線、乳がんなど）専門領域の看護外来の2列で開設している。また入院患者への看護外来体制を整備している。

【改善・充実が求められる点】

①化学療法関連… 1. がんゲノム医療の更なる普及のため、がんゲノム医療中核拠点病院である東北大学の連携病院として、患者への啓発活動をおこなうこと。 2. IrAE に関しては院内での診療科横断的な多職種への教育・連携をさらに図ること。

②放射線治療関連…

③緩和ケア関連…緩和ケア外来の大部分が緩和ケア病棟への入棟相談・申し込み外来になっていること。COVID 対策で緩和ケア病棟 (PCU) が閉鎖されるなど、PCU を有する拠点病院としての力を発揮できなくなっている。

④患者相談関連…がん相談支援センターの患者・家族への周知、利用者からのフィードバック、ピアサポーターの活用の点でより一層の改善を求めたい。

⑤がん登録関連…がん登録中級認定者の複数配置

⑥地域連携関連…入退院支援加算 1・入院時支援加算 1 を算定できる準備を整えてきたが、入院前支援・前方支援・退院調整に携わる人数がまだ少なく、また病床数に対する MSW の人数も少ない。

⑦口腔ケア関連… 1. 宮城県の口腔ケア部会に所属する他施設との連携をとれるようにしたい。  
2. 地域の歯科医師会と連携して、当院で治療が済んだ患者さんを地域の歯科医院に積極的に逆紹介している。これをさらに進めたい。

⑧看護関連…外来での「苦痛のスクリーニング」については診療科により実施状況が異なる。看護外来で対応できる認定看護師と診療科の外来日がマッチしていないことがあり相談件数が伸びない。入院患者への看護外来の対応は看護体制に「ばらつき」が認められる。

## 仙台医療センター

### 【優れた取り組みとして評価される点】

多数の診療科・専門医・職種が常勤している仙台市内の大規模総合病院としての長所を有している。2019年5月には施設移転と電子カルテを含めた設備更新がなされて一層のがん診療の充実が期待される。

①化学療法関連…1. 免疫チェックポイント阻害薬の免疫関連有害事象（irAE）の診療科・部門横断的カンファレンスの開催、検査セットの整備、2. 外来治療では薬剤師が医師診察前に問診を行い医師への情報提供を行うことで診察の効率化を図っている。

②放射線治療関連…放射線治療医常勤2名や医学物理士がそろっており、強度変調放射線治療や定位放射線治療を実施している。2台のリニアックが稼働している。

③緩和ケア関連…緩和ケアでは、緩和ケアチーム紹介への返信率・治療計画書の作成率および（入院・外来ともに）苦痛のスクリーニング返信率が100%、緩和ケア外来診療加算の取得率が86%と高率であった。緩和ケア関連の外来診療件数、病棟等のカンファレンスに緩和ケアチームスタッフが参加した回数、がん治療担当医師の緩和ケア研修会受講率は県内他施設よりも優れている。

④患者相談関連…全国的な視点から求められている地域拠点病院のレベルを維持している。評価基準として使用したPDCAサイクル実施状況チェックリストの評価項目31項目の中で前年度より評価点が向上した項目が2項目であったことから、着実に業務の改善に努めていることが伺われる。新型コロナウイルス感染症流行下で在宅診療を希望される患者への支援に注力している点は評価できる。

⑤がん登録関連…実務者の登録精度向上のため、継続的な研修会への参加

⑥地域医療…スタッフの人数が少ないが情報共有を図ることが容易であり、患者の状況に応じた適切な入退院支援ができるように取り組んでいる。電子カルテに共有された在宅医療機関リストはクリックひとつで各医療機関の詳細な情報が確認できる。また書式が登録済みの機関の場合、申込書を印刷可能である。

【改善・充実が求められる点】

- ①化学療法関連…1. 免疫関連有害事象(irAE)に関しては薬剤の適応拡大に伴い使用症例が増加している。副作用報告の増加が見込まれるため、より院内でより早く副作用情報および対策の共有を行うために症例検討会を3症例蓄積毎の不定期から定期開催へと改める。2. がんゲノムの拠点病院でないために患者への情報提供が希薄になる可能性が考えられるため、がん診療連携室と共同して院内掲示やがんゲノム医療の関する講演会や研修への参加を促す。
- ②放射線治療関連…1. COVID-19 が放射線治療患者あるいは担当職員に発生した場合の対策・準備（マニュアル等）の整備を行う。2. 有資格者の確保が難しい所ではあるが、がん放射線治療看護認定看護師の確保及び治療室の看護師の増員を目標としていく。
- ③緩和ケア関連…1. 外来患者さんの苦痛のスクリーニングの実施率が非常に低いためスクリーニング方法の再検討も含めて実施率を向上させる。(2021年度目標 50%以上) 2. COVID-19 のために緩和ケア勉強会（地域連携）、痛み教室の開催に支障がでた。開催方法の変更も含めて確実な開催を実現する。3. 日本版 End of Life 看護教育カリキュラム(ELNEC-J)の再開方法も含めた開催を検討する。
- ④患者相談関連…1. 新しい医療(AYA 世代の妊孕性温存・がんゲノムパネル検査等)の広報活動の実施 2. 各診療科とがん相談支援センターとの連絡をより一層改善するために広報活動（具体的にはリーフレットの作成、ポスター掲示の強化を行う。 3. がん相談支援センター内に相談員指導者研修を受けた相談員の増員を図るべく積極的な研修への参加を行う。
- ⑤がん登録関連…がん登録中級認定者の養成
- ⑥地域医療連携関連…スタッフ数が少ないため看護師や MSW が一般事務的な業務も担当している点。在宅医療機関リストでは（他施設と比較すると）未登録の機関が散見された。
- ⑦口腔ケア関連…1. 周術期・化学療法・化学放射線治療に分類して現況把握および実施率の更に向  
上させる。2. 地域登録歯科医院との連携を強化してがん診療における口腔ケアの啓蒙を図る。（講座等の開催）
- ⑧看護関連…がん関連の専門・認定看護師が少ないため、がん相談、リンパ浮腫、アピアランスケア、緩和ケアチームなどでのマンパワー不足がある。また外来化学療法室・化学療法件数の多い病棟への重点配置が実現できていない。

## 東北労災病院

### 【優れた取り組みとして評価される点】

総合病院として多様な診療科・職種・救急医療体制を有する特徴を持つ。特に緩和ケアおよびがん登録に関しては県内でも指導的役割を果たしていると言える。

①化学療法関連…連携充実加算を「外来化学療法加算1」を算定している患者全員に実施している。外来化学療法センターに専門薬剤師が常駐となり、診察前面談や副作用モニタリング、がん患者指導管理（ハ）の件数が増加した。

②放射線治療関連…放射線治療医常勤1名で行っている。リニアックは1台が稼働している。超音波ガイドの画像誘導放射線治療が可能である。

③緩和ケア関連…入院患者における「苦痛のスクリーニング」を毎日実施しており、週1回 STAS-J スコア2以上の患者を拾い上げ、緩和ケアチーム（PCT）メンバーで評価・苦痛軽減のための助言を実施している。PCTは緩和ケア内科医師・看護師だけでなく麻酔科・腫瘍内科の医師・音楽療法士・管理栄養士（インボディ測定・栄養指導の実施）など多職種での活動が来ている。

④患者相談関連…病院全体でがん患者の仕事と治療の両立支援に取り組んでおり、がん相談支援センターもその活動に貢献している。

⑤がん登録関連…当院がんセンターを中心として、治療成績の公開に理解がえられており、生存率等の独自集計・公開に積極的に取り組んでいる。診療情報管理室が臨床試験や臨床研究などの解析サポートを実施している。

⑥地域医療連携関連…設置母体の特性もあり、治療と就労の両立を支援する体制（センター）が病院構内に設けられて病院の他職種と連携して相談業務にあたっている。入院時支援加算1の要件を満たす人員配置で各種がん患者への対応も向上した。

⑧看護関連…COVID対策を図りつつ緩和ケアカンファレンスや緩和ケアチーム回診を週1回以上実施できた。



【改善・充実が求められる点】

- ①化学療法関連… 1. 免疫チェックポイント阻害薬の免疫関連有害事象（irAE）に関する診療科・部署横断的チーム、カンファレンス、マニュアルなどの準備。 2. アピアランスケアや意思決定支援に関して一層の充実。 3. ガンゲノム医療に関する職員および患者・家族への啓発活動。
- ②放射線治療関連… 1. 県内他施設では充足されている医学物理士の配属が長年の懸案である。 2. ガン放射線看護認定看護師の育成あるいは雇用が望ましい。 3. 高精度放射線治療を実施するには人員的にもハード面でも不足している
- ③緩和ケア関連… 1. 外来患者に対する苦痛のスクリーニング実施率の向上、がん看護外来の活用。 2. 臨床倫理コンサルテーションチームと ACP（Advance Care Planning）の院内周知が不十分であること
- ④患者相談関連… 1. 評価基準として使用した PDCA サイクル実施状況チェックリストの評価項目 31 項目の中で、相談支援センターの案内表示の定期的な見直し、相談員の（e-learning を含めた）各種研修への参加、センター内の課題解決法の共有、センター活動の外部評価などの項目で前年度よりも自己評価点が低下していた。 2. 施設内に開設されている治療就労両立支援センターと連携して、がん患者への就労支援の一層の充実
- ⑤がん登録関連… 1. がん登録中級認定者の複数配置。 2. 診療情報管理士の研修会・学会参加の予算化。 3. 職場（診療情報管理室）の環境整備。
- ⑥地域医療連携関連… 病床数に比して MSW の人数が少ない。地域医療連携室と入退院支援担当部署との距離が遠く情報共有の点でも改善が必要。在宅医療機関リストでは登録機関の情報の一本化・統一化がなされていない状況。COVID 対策として中止している「がんセンター公開セミナー」「台原がんセミナー」などの啓発活動の安全な再開。
- ⑦口腔ケア関連… 地域のがん診療連携登録歯科医との一層の連携
- ⑧看護関連… 担当する認定看護師が不足しており、がん看護外来は相談件数が伸びない。

大崎・栗原医療圏（高度型）地域がん診療連携拠点病院

## 大崎市民病院

### 【優れた取り組みとして評価される点】

県北のがん診療の中心施設であり、診断・治療数は拠点病院中、東北大学病院・宮城県立がんセンターに次ぐものである。2019年度から高度型地域がん診療連携拠点病院に指定された。

②放射線治療関連…2020年11月から常勤医が3名に増員され、医学物理士も常勤している。強度変調放射線治療や定位放射線治療を実施している。2台のリニアックが稼働している。県北の要であり、症例数も多い。

③緩和ケア関連…緩和ケアチーム（PCT）の構成人数が多いことから、患者ごとに対応する小チームが流動的に形成可能である。また各専門職が積極的に意見を出し合う雰囲気があり、患者のニーズに応じて即時的・機能的な支援が可能でケアの質の向上につながった。結果的に入院がん患者あたり緩和ケアチームの年間患者数が昨年度から3倍以上に増加したことは特筆に値する。外来患者に対する医療用オピオイド導入時の薬剤指導をシステム化することにより、オピオイド初回導入の患者にもれなく支援を提供することが可能となった。

④患者相談関連…全国的な視点から求められている地域拠点病院のレベルを維持している。評価基準として使用したPDCAサイクル実施状況チェックリストの評価項目31項目の中で前年度より評価点が向上した項目が8項目、低下したものがなかったことは、業務改善に積極的に取り組んでいることが伺われる。がんサロンに常時スタッフを配置していること、ウィッグに関わる相談にも積極的に取り組んでいること、更に新型コロナウイルス感染症流行下でも感染予防に配慮しながらこれらの活動が継続されていることは評価できる。

⑤がん登録関連…継続的な認定実務者育成研修会への参加

⑥地域医療連携関連…職員配置では、入退院加算1を算定できるようにMSWの体制を整備し、安心・安全な入退院支援に取り組んでいる。在宅医療機関リストについては、掲載機関の診療機能を把握できる書式となっている。

⑦口腔ケア関連…病院歯科部門と地域歯科医師会（診療所）との連携は県内のモデルとなっている。

⑧看護関連…がん看護に関する研修会への参加者が多く、がん看護を学ぶ意識が高い。

【改善・充実が求められる点】

- ①化学療法関連… 1. 外来化学療法センターのベッド予約システムの効率的な運用。 2. 経口抗がん薬服用患者の副作用マネジメントのための薬剤師外来の充実。 3. がん薬物療法の質向上に向け、多職種連携を図る（多職種カンファレンスの実施、連携充実加算の取得など）
- ②放射線治療関連… 1. 放射線治療専門技師の養成。 2. 放射線治療に関する看護の標準化、質的向上
- ③緩和ケア関連…オピオイド開始後の外来患者管理に関して PCT と担当科外来との連携が十分でない。また外来通院から直接、在宅緩和ケアに移行する際など、院内（各科外来）と院外関連機関との連携は改善が必要である。
- ④患者相談関連… 1. がん相談支援の質を担保するため、信頼できる情報の収集と整理。 2. がん相談支援センター周知のため、広報活動を強化。 3. がんサロンの運用見直し（新しい生活様式への対応）
- ⑤がん登録関連…がん登録中級認定者の複数配置
- ⑥地域連携関連…前方支援を担当する事務職が少なく、多職種の業務・配置計画を再考したい。在宅医療機関リストについては、部会参加全施設で検討して、様式の充実・統一化が必要と考える。
- ⑦口腔ケア関連… 1. 周術期における医科歯科連携のさらなる推進。 2. 地域歯科医療機関の口腔ケアの質の向上。 3. 化学療法、頭頸部放射線療法、緩和ケア等に対する医科歯科連携の推進
- ⑧看護関連…「苦痛のスクリーニング」について入院・外来とも実施率を上げる必要がある。緩和ケアチームの相談件数は増加したが加算算定につながらないことがある。

石巻・登米・気仙沼医療圏（高度型）地域がん診療連携拠点病院

## 石巻赤十字病院

### 【優れた取り組みとして評価される点】

がん診療が評価されて高度型地域がん診療連携拠点病院に認定されている。

①化学療法関連…アピアランスケアについてはソシオエステティシャンが、遺伝カウンセリングについては専門カウンセラーが常勤して日常的に患者へのケアを提供している。

②放射線治療関連…放射線治療医常勤2名や医学物理士がそろっている。症例数も増えている。1台のリニアックが稼働しており、2021年1月より強度変調放射線治療が開始された。

④患者相談関連…評価基準として使用したPDCAサイクル実施状況チェックリストの評価項目31項目の中で前年度より評価点が向上した項目が6項目、低下したものがなかったことは、業務改善に積極的に取り組んでいることが伺われる。がんサロン活動をコロナウイルス感染症流行下でも環境を整えて継続していることやピアサポート研修修了者の実地見学を積極的に受け入れている点は高く評価できる。

⑤がん登録関連…専任の育成

⑥地域医療連携関連…担当部署にベッドコントロール担当を配置し、各担当との連携を深めることでより実践的なPFM体制の確立に向けて取り組み始めた。

## 【充実・改善が求められる点】

- ①化学療法関連…1. 免疫関連有害事象に関する診療科横断的なカンファレンスについて、準備から実践に移すこと。2. がん患者指導管理料について、算定件数も増加してきたところではあるが診療科を限定せずにごん治療を行っている診療科すべてに拡大すること。3. 要件である保険薬局との勉強会が COVID 感染の影響で開催されておらず連携充実加算の開始に至っていないこと。
- ②放射線治療関連…増加する患者数への対応を講じること。治療が 20 時までかかることもあり、1 台で治療を行うのは難しくなっている。
- ③緩和ケア関連…入院・外来患者とも「苦痛のスクリーニング」実施件数の伸び悩み
- ④患者相談関連…1. がん相談支援センターの役割を病院スタッフに周知すること。2. 利用者からのフィードバックを活用すること。3. マニュアルを策定し随時更新すること。4. 相談員の部門内またはセルフのモニタリングの仕組みを作ること。
- ⑤がん登録関連…がん登録中級認定者の複数配置
- ⑥地域医療連携関連…退院支援担当者 1 名あたりの病床数が比較的多いことから、必要な患者に適切な退院支援を行えるように検討を進める。在宅医療機関リストについては、在宅医療を提供できる機関は決して多くないので今まで以上に連携体制を整えていく。
- ⑦口腔ケア関連…地域の病院開業歯科との連携を一層強化すること。

## みやぎ県南中核病院

### 【優れた取り組みとして評価される点】

近隣施設（宮城県立がんセンター、公立刈田総合病院など）と連携しつつ仙南医療圏のがん医療を支えている。

①化学療法関連…がん関連の資格を持つ看護師が増員されて関連するがん患者指導管理（ロ）や肝細胞がん患者への指導が増加した。

②放射線治療関連…リニアックは1台が稼働している。東北大学病院からの応援医師が週2日勤務している。

③緩和ケア関連…がん患者指導管理料ロ（不安などの症状に対して看護師主体の加算）の件数は専門・認定看護師やがん患者数あたりで多数取得されている。緩和ケア認定看護師が緩和ケア内科外来に可能な限り介入しており、入院時に病棟スタッフに通院中の状況など情報提供がなされて、入院療養や退院支援に貢献している。

④患者相談関連…がん診療連携拠点病院に劣らないレベルを維持している。評価基準として使用したPDCAサイクル実施状況チェックリストの評価項目31項目の中で前年度より評価点が向上した項目が4項目、低下したものが6項目であった。院内で患者相談・支援業務により集中できる環境が整えられたようであるので、チェックリスト等を活用しながらより一層業務改善に取り組むことが期待される。

⑤がん登録関連…中級認定者の退職に伴い、初級および中級認定者がいない状況。がん診療連携拠点病院を目指すためには中級者の配置が要件となることから将来を見据えた人員育成に取り組む。

⑥地域医療連携関連…医師・メディカルスタッフの距離が近く、気軽に相談できる体制がとれている。在宅の医療機関・訪問看護ステーションと院内がん相談支援センター（患者サポートセンター）・緩和ケア病棟などとの連携が、定期的な連絡会議や日々の情報交換にて密に取れている。

⑧看護関連…がん関連専門・認定看護師は少数であるが外来化学療法室、がん相談支援センターなど必要部署に配置されて質の高い看護の提供に役立っている。緩和ケア病棟入棟判定会議に緩和ケア認定看護師と病棟担当ソーシャルワーカーが出席して、病状以外の生活状況・患者家族の意向などの情報提供を行っている。当院に訪問看護ステーションがあり、在宅緩和ケアの充実が図りやすい環境にある。

【改善・充実が求められる点】

①化学療法関連…1. irAE 出現時の対応マニュアル作成や対策チームの設立。2. 腫瘍センター人員の拡充。3. 遺伝カウンセリング体制の拡充。4. 診療科横断的ながん薬物療法適正化に向けたカンファレンスの実施。5. キャンサーボードの機能強化。6. 要件である管理栄養士がおらず連携充実加算の開始に至っていないこと。

②放射線治療関連…放射線治療医の常勤化（現在、放射線治療科は非常勤のみであり、新規患者の受付が週1回しかできず、タイムリーな照射ができないことが問題である。早急に常勤医を配置したい）

③緩和ケア関連…外来・入院患者とも苦痛のスクリーニングを実施率が低い。がん診断時や積極的治療期における緩和ケア介入に苦慮している。

④患者相談関連…新たに患者サポートセンターを設置し、初診時から各種情報提供等を行っており、今後さらに患者支援体制を充実させる。

⑤がん登録関連…がん登録初級者・中級者の配置

⑥地域医療連携関連…入院前支援、MSW、退院調整看護師のマンパワー不足、特に看護師配置が少ない状況。在宅医療機関リストについて地域の医療資源に乏しい。在宅支援診療所の届け出と実際の受け入れに差があること。24時間麻薬取り扱い可能な保険薬局が少なく、調整に時間を要することがある。

⑦口腔ケア関連…手術や化学療法予定患者については、原則として全例歯科口腔外科にて口腔ケアを行う方針となったが、まだ全例もれなく歯科口腔外科に依頼していないため、今後はもれなく受診できるようにする。

⑧看護関連…緩和ケアチームの継続した介入が少ない。緩和ケア診療加算が取得できていない。がん関連の専門・認定看護師が現在2名と少ない。